

今週のメニュー

■トピックス

◇SNSタイアップ広報・第五弾

～授業で聞いた単語が忘れられず… 男の子が辞書で調べた言葉、実は？～

■随想

◇2005年シリア旅行記 (8) 挨拶

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇SNSタイアップ広報・第五弾

～授業で聞いた単語が忘れられず… 男の子が辞書で調べた言葉、実は？～

広く世間一般に塩ビに対する「正しい理解」を得ることを目的に、2年前に始めたSNSタイアップ広報ですが、昨年は59万人の方に読んでいただきました。6月26日、第5弾のSNS広報を掲載しましたので紹介します。タイトルは、～授業で聞いた単語が忘れられず… 男の子が辞書で調べた言葉、実は？～です（公開初日に6万人に読まれています！）。

ご存じのようにSNSは「Social Networking Service」の略で、FacebookやLINE、X、Instagram、YouTubeなどのネット系メディアを指し、家族や友人、社内外などを含め広く社会のコミュニケーションにはなくてはならない存在になりつつあります。そこで、総務省のHPで直近のメディア別の利用率の推移を調べてみました。



図1に直近10年間のメディア別の利用時間を示しました。メディア全体の利用時間はコロナ禍を境に大きく増加（5→6時間）し、これにタイミングを合わせるように、長年、主要メディアだったテレビがネットに取って代わられました。直近10年間でテレビは減少傾向にあるのに対して、ネットの利用時間は倍増しており、情報ツールとしての重要性が高くなっています。

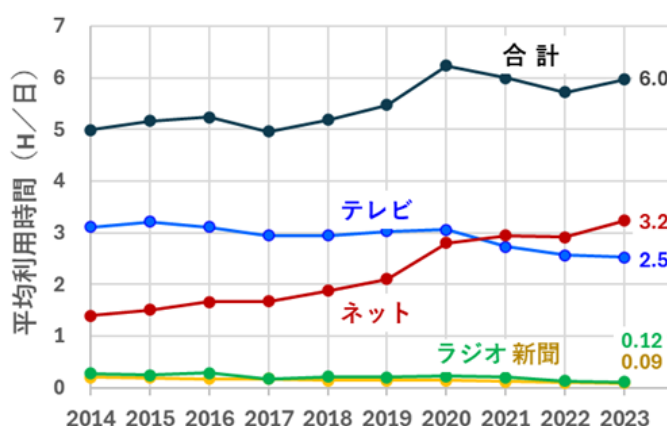


図1 メディア利用時間の推移（全世代平均）

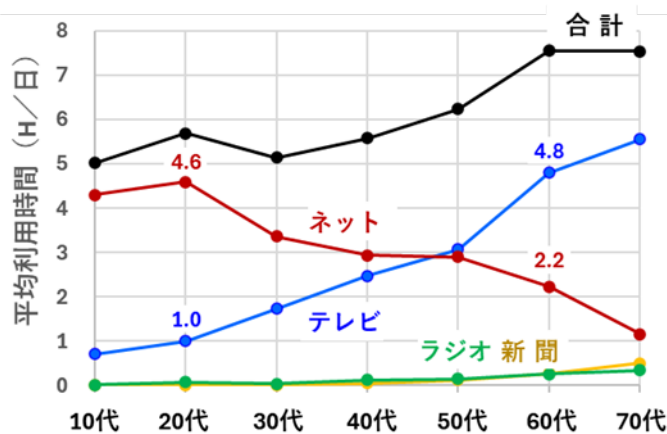


図2 世代別のメディア利用時間

また、最近の若者は部屋にテレビを置かず、見たい情報を見たい時にスマホで見る人が増えていると聞きます。総務省の報告書から、2023年のメディア利用時間を年代別に整理すると図2になります。10～30代の若者はネット利用が主流になっているのがよく分かります。一方で60代以上は未だテレビが主流になっています。これらのデータからみても、SNSは広報ツールとして、ますます存在感を高めています。



今回の SNS 広報のテーマは『塩ビと可塑剤』です。もともと塩ビは無色透明の硬いプラスチックですが、同じ塩ビ樹脂から作られた製品でも、パイプや窓サッシのように硬いものがある一方で、手袋や食品ラップ、電源コードに使われる電線被覆材や塩ビレザー、壁紙のように柔らかいものもあります。また、柔らかさも製品により様々です。

今回の記事では塩ビ製品の硬さ（柔らかさ）の違いを切り口に、塩ビの大きな特徴＝可塑性と塩ビと可塑剤の関係を解説しています。

今回のタイアップ広報は、漫画家（羊の目。氏）の漫画と解説文の2段構成で、スッと読めるように工夫しています。是非ご覧ください。

<https://grapee.jp/1952557>

◇2005 年シリア旅行記 （8）挨拶

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

2024 年 12 月 8 日、シリアのアサド大統領はロシアに亡命、現在は反政府勢力の指導者であったアフマド・アッ＝シャラア氏がシリア・アラブ共和国の暫定大統領に就任しました。

アフマド・アッ＝シャラア氏は暫定大統領に就任後、シリア国内の復興を目指すだけでなくアメリカ、日本を含む西側諸国にも積極的に接触を行い有効な関係が構築できるよう勤めています。

暫定大統領就任前、アメリカはアフマド・アッ＝シャラア氏を特別指定国際テロリストに指定し懸賞金を出していました。

暫定大統領就任後、アメリカはアフマド・アッ＝シャラア氏をシリアの代表者であると認めテロリストの指定、懸賞金は取り下げていますがトランプ大統領は懐疑的で、隣国ヨルダンのアブドラ国王の仲介で何とか関係を維持している状況のようです。

シリア国内は内戦がほぼ終結し現在は一部の地域で小競り合いが散発的に発生することもあるようですが概ね安定しているようです。

ただ経済の復興はまだ始まったばかり。シリアの友人からのメールでは農産物を中心とする基本的な食料はほぼシリア国内で自給できる状態に戻り果物を中心とした輸入品も日に日に増えてきているそうです。

産業に関しては内戦で中小を含むほとんどの生産設備が完全に崩壊したため家内工業的なものから徐々に復活してきているようです。

しかし大きな収入を得ることは難しく暫定政府からの食料品を含む支援も行われていないため多くの人が内職的な仕事や日雇いの仕事で何とか生活をしている状況のようです。

それでもシリアからのメールでは戦闘がなくなり日々安心して生活ができるようになった喜びと未来への希望が書かれるようになりました。

シリア、中東では軍事力以外であまり目立たない国でしたがこれからどのような国を目指し実現していくのか期待を持って見えています。

ここからは 2005 年のシリアに戻ります。

シリアの物流はトラック輸送が中心。

以前は鉄道輸送も行われていましたが、現在は内戦により多くの路線が破壊されてしまいほとんどが運休状態。

第一次世界大戦前までは当時のオスマン帝国によりシリアの首都ダマスカスからサウジアラビアにあるイスラム教徒の聖地メッカまで巡礼者を運ぶため「ヒジャーズ鉄道」が運航されていました。

しかし、中東覇権を望んでいたイギリスから派遣されたトーマス・エドワード・ロレンス (アラビアのロレンスとして有名ですね) が反オスマン帝国派である過激派を指揮し

破壊してしまいました。

それ以降、物流は国内外の輸送ともトラック輸送が中心となっています。

このシリア旅行記はこれで最終回となります。

去年（2004 年）、訪問したチュニジアでは自転車の宅配便のおじさんたちがいましたが、シリアでは三輪自動車を使った宅配便のおじさんがいました。

この三輪自動車、「タラテラ」または「タッチーナ」と呼ばれており、イメージとしてはリアカーの人が引く部分に前輪を付けたものでエンジンは壊れたバイクのものを再利用しています。

エンジンはバイクのものをそのまま流用していますが、車体などは全て街の溶接屋さんの手作り。溶接屋さんが仕事の片手間に、注文を受けて作っているようです。



宅配三輪バイク「タラテラ」

三輪自動車を使った宅配便のこのおじさんたち、基本的にはスークやお店の周辺にたむろしており、買い物帰りのお客さんに「お荷物、運びますよ」と呼び込みをしています。

他にも回収した空き缶の輸送を頼まれたらしく高さ 4 メートル近くも空き缶を積み上げてフラフラ走っているおじさんやニワトリを沢山積み過ぎて、信号待ちから発進する際、積んでいたニワトリを落として走り出すおじさんも。

シリアの人は親切ですから、歩いていた人が落としたニワトリを捕まえて必死になって三輪自動車の後を追いかけていきました。

日本ではまずありませんが、シリアでは知らない人同士でも目が会うと挨拶をするのが普通。ニッコリと微笑みながら右手を胸の位置位まで上げ、手のひらを相手に向けて挨拶をします。

このとき、相手の年齢によって言う言葉が違います。

年上や目上の人「サラーム」か「サラムリコン」

年下の人「メルハバ」

上記は簡単な一般的な挨拶で、正式な挨拶の際には「アッサラーム・アレイクム」を用います。仕事などでアラブ人と挨拶をするときにはこちらを使います。

ところがアラブ人、日本人から見ると結構老けた顔をしているのです。
「サラーム」と挨拶したら「僕、20 歳なのです。あなたの方が歳上でしょ」と言われたりして。。

首都ダマスカスではそれほどではありませんが、田舎に行くと日本人は珍しいせいか、歩くだけで注目されるのですぐに人と目が合い、挨拶することに。
その度にニッコリするので、1 日、街を歩いていると挨拶笑いのため顔の筋肉が引きつってきます。

日本やアメリカなどでは出入国税は航空運賃に含まれていますがシリアは空港で印紙を買ってパスポートに貼り付けます。

日本人の場合は、日本のシリア大使館で入国ビザを取得する際、手数料と一緒に入国税を支払いますのでパスポートにビザのスタンプを押す際、一緒に入国の印紙も貼ってくれます。

しかし、出国する際は自分で印紙を買って貼ることになります。

外国人の出国税は 200 シリアンポンド。日本円で約 400 円。

シリアではちょっといいレストランでデザート付きの食事が出来る値段です。

ところがシリア人が出国する際の出国税は 17,000 シリアンポンド。

日本円で約 34,000 円。シリアの平均月収を上回ります。

おまけに大人も子供も同額。赤ちゃんも同じ。

他にもシリアの人が海外に行くときには出国許可証の取得も必要で、この取得にも高額のコストが必要だと聞いています。

航空券の値段も考えると海外旅行はまだまだ一般の人には手が届くものではないようです。

しかし、例外があります。メッカへの巡礼。

これはモスクの推薦状があれば比較的安価に航空券が購入でき、出入国税も要りません。
お隣のレバノン、ヨルダンへはパスポートがあれば比較的自由に行き来が出来るようです。レバノン、ヨルダン行のバスも地方都市を含めかなりの便数が運行されており値段もお手頃。私も何回か利用しています。

午後 10 時頃、ダマスカスの旧市街を歩いていたら前から異様な雰囲気のコートがやってきました。

全員、埃まみれで薄汚く疲れ切ったようなコート。シリアの人たちもギョツとして見ています。

ナントこれ、どこかの日本人ツアー一行様。

この時間に旧市街の観光をするのですから、多分、強行軍で朝早くからシリアの観光地を回ってやっとダマスカスへ着いたのでしょう。

ツアー参加者たちはシリア気分になっているのでしょう。どこかで買った民族服もどきを着ているのですが男女の区別も着こなしも全然出来ていません。

歩いていたシリアの人から「あれ、あなたと同じ日本人？ 普通の人なの？ それとも

日本人のジプシーなの？」と聞かれました。

強行軍も結構ですが、もう少し服装に気を付けましょう。一番ヨレヨレだったのは日本人ガイドさんでした。お疲れ様。

シリアからヨーロッパに戻って
気が付きました。野菜の味が薄い！

同じキュウリやニンジン、トマト
がシリアでは強烈に味が濃かったです。

ほとんど手を加えず、自然のまま
に育つと野菜本来の強烈な味になるのですね。

シリアの子ども達も元気一杯。
真っ黒に日焼けして駆け回っていました。



今回もお読み頂き、ありがとうございました。

(続く)

次回は、(9) 国が違えば です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp